

グースの家

公園のシンボルツリーを守る妖精の家

生活者・消費者視点

新規性・独創性

意匠性・造形性

環境配慮性

地域貢献性

山楠公園は、岐阜県加茂郡川辺町にある自然豊かで誰もが楽しめる公園である。桃太郎伝説の残る鬼飛山の登山口もあり多くの登山者が訪れる。公園のシンボルは中央にある大きなクスノキで、子供たちが枝で遊んだり木陰で休憩したりする場所だが、根が地表に露出していることや丘に傾斜があるといった懸念があった。

そこでクスノキの根を保護するとともに、多くの方が集まる場所として、クスノキの幹を中心に、芝生広場側には扇状のウッドデッキを、反対

公園の顔になる メルヘンチックな 地域材の木造建築

側には丘を利用した張り出しデッキを含んだ、子どもたちが喜ぶ小屋のような建物を計画した。

設計は、県立森林文化アカデミックリエーター科の田村聡さんが協力し「妖精が集まるようなメルヘンチックな建物」を考案した。シンボリックで不思議な形状の外観に、川辺町産材の木材がよく見える小屋組と、土壁のようなモルタルを曲面に仕上げた。芝生広場と階下の通路を結ぶアスレチックネットを設置し、新たな動線を遊具としても利用することができる。



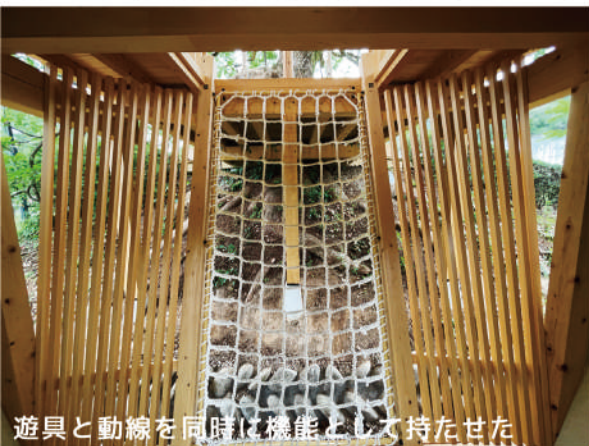
クスノキを守る「グースの家」



階下から見上げるとクスノキが見える



細かな手摺の繊細さと架構の大胆さの空間



遊具と動線を同時に機能として持たせた



イベントやお弁当を食べる場所としてのデッキ

グースの家

地域材 × 地域技術建築 = 地域循環型経済

意匠性・造形性

普及・啓発性

時間的価値性

社会提案性

地域貢献性

環境配慮性



すぐそばに軸組の見える木組の建物。構造材はすべて川辺町産材の桧



木組が見えることで木と技術が伝わる

山主への意向調査で「町のために使って欲しい」オール川辺町産材の木造建築を地域の職人が建設し地域産業の活性化



クースの家

この建物で使われている木はすべて川辺町の森で育った桧です。

The wood used in this building is all Japanese cypress grown in the forests of Kawabe town.

柱にプレートで表記し普及啓蒙

「クースの家」では、構造架構の木組を見ることができ、尚且つ川辺町産材であることを知らせるプレートがあることで、地域の人たちは建物への愛着が増し、自分の町の森や木の整備について関心を持つきっかけができる。

また、施工は大工を含め全て近隣地域の職人であり「技術の地産地消」を行っている。経年変化の美しい木組だが数年毎のメンテナンスも同じ職人が行うことで、町のお金が外に出ていくことがなく、長期的に地域循環経済に寄与することができる。



小屋組と左官のつくる不思議な空間

グースの家

川上川中川下をつなぐ「良いものを目指す熱意」

生活者・消費者視点

意匠性・造形性

社会提案性

展開性

時間的価値性

地域先進性



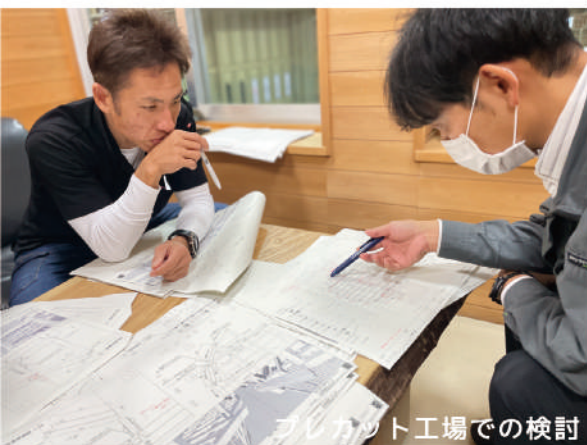
渾身の設計を伝える学生



曲面の壁下地は膨大な手間がかかる作業



もっと良くしようと手間を惜しまない現場での検討



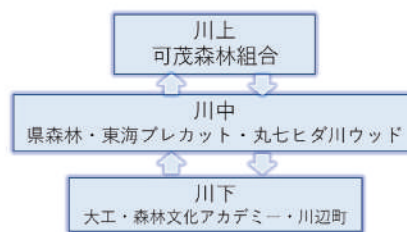
プレカット工場での検討

川上川中川下の好循環には「ハブ的役割」をする人材が大切

林組合の井戸氏が造材から役場と県森連と設計の間でハブ的役割をしたことが、川上から川中、川下への良い連携状態をつくり、高いクオリティの建物が完成した。

事前の綿密な設計に大工が忠実に応え、変更の手続きが増えても県森連がそれをこなし、学生の田村さんはできるだけ現場に通った。また川辺町は建設費の増額に対応した。

「こんなに良いものができたら」と関係者が普段の職務領域を超えた行動をとったことが良い連携を形作った。

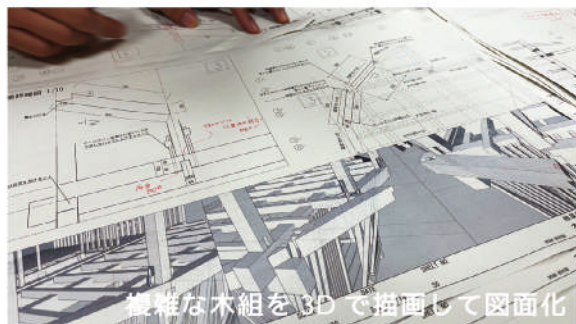


地域材利用の意義があっても、良いものが完成しないと意味がない。良いものには「一人」が欠かせない。

岐阜県森林文化アカデミーの田村聡さん（学生）がデザイン・設計協力、東濃ひのき製品流通協同組合の大工鈴木氏が現場と設計と製材業者の間でハブ的な役割をし、可茂森



材料検査



複雑な木組を3Dで描画して図面化



大工、設計、森林組合、協同組合、町役場が綿密に連携

グースの家

まちに親しまれる公園が「木育」の拠点になる

生活者・消費者視点

普及・啓発性

社会提案性

展開性

地域貢献性

地域先進性



デッキがあるおかげで子どもたちはクスノキに親しみやすくなった



木育の屋外拠点としての「ケースの家」

「ケースの家」完成後、県産材材を利用した木製木棚ワークショップで木育推進に取り組んだ他、パランスボールやヨガ教室など健康推進イベントも行った。マルシェや花見、野球場での大会で多く賑わいを見せる山楠公園が新たに「木育」の屋外拠点となっている。

森と木に親しむ教育の拠点に

県産材木工ワークショップ



地域のスポーツクラブによる屋外イベント



町内小学生が「ケースの家」と命名

グースの家

日本の木組の大工技術をこれからもずっと

生活者・消費者視点

意匠性・造形性

普及・啓発性

展開性

時間的価値性

地域貢献性

地震が多く、降水量は世界平均の倍である日本の木造建築は、倒壊させない・腐らせないために、高度に大工技術が発達した。だが、木の性質を熟知し、精密な墨付けと刻みができる大工は、プレカットの台頭で減少し続けている。

ある鈴木氏は、曲面やせり出し部分の特殊な軸組の納まりをプレカット工場と綿密に打ち合わせし、難易度の高い場所では手刻みで加工することで納めた。

また、丸太で納品された状態から製材、乾燥の指示も行き、図面の内容を熟知した上で、極めて短い工期の中で難しい工事をやり遂げた。

こうした熱意は、架構の見える真壁の建物を手がけることがモチベーションとなつて

おり、精度の高い仕事があるまま現れるからこそやりがいのある仕事して取り組んでもらえた。

失われつつある優れた大工技術を継承していくためには「真壁の良い建物」を設計提案し、工事を実現することが重要であり、若い学生や大工が参加することでその技術や志が受け継がれていく。

**大工技術の継承と人材発掘育成は
真壁の良い建物を提案することから**

架構がインテリアになる真壁構造

クスノキを纏う手摺

木と木を組みその性質を熟知して建てる技術

美しい架構が建ち上がる建方は木造建築の醍醐味

若い学生に木組の建方を教える大工さん

